

第32回 中国ブロック理学療法士学会 抄録集

新しい領域への学び



2018年9月8日(土)～9日(日)
米子コンベンションセンター BiG SHiP

学会長 大床 桂介 YMCA米子医療福祉専門学校

第32回 中国ブロック理学療法士学会

抄 録 集

① 新しい領域への学び

会 期：2018年 9月8日(土)・9日(日)

会 場：米子コンベンションセンター

学会長：大床 桂介
YMCA 米子医療福祉専門学校

主催／担当：中国ブロック理学療法士会
一般社団法人鳥取県理学療法士会

後 援 一 覧

鳥取県／米子市／公益社団法人鳥取県医師会／一般社団法人鳥取県薬剤師会／
公益社団法人鳥取県看護協会／公益社団法人鳥取県栄養士会／
一般社団法人鳥取県作業療法士会／一般社団法人山陰言語聴覚士協会／
一般社団法人鳥取県臨床検査技師会／一般社団法人鳥取県診療放射線技師会／
社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会／日本海テレビ／TSK山陰中央テレビ／
BSS山陰放送／株式会社中海テレビ放送／新日本海新聞社／山陰中央新報社

学会長あいさつ

第32回中国ブロック理学療法士学会

学会長 大床 桂介

YMCA 米子医療福祉専門学校



第32回中国ブロック理学療法士学会を平成30年9月8日(土)・9日(日)に鳥取県米子市の米子コンベンションセンターにて開催することになりました。

今年は、鳥取県の名峰「大山」の開山1300年にあたる記念の年であります。このような記念の年に中国五県の理学療法士の会員の皆様をはじめ、多くの関係各位のご協力を頂き、学会を開催できますことを誠にありがたく存じます。

急激な理学療法士の増加に伴い、理学療法士の社会的認知の広がりや、社会的地位の向上などプラスの面がある一方、雇用の需要と供給が逆転し、理学療法士が余る時代に突入したのではないかと危惧しております。特に人口規模の小さい鳥取県ではここ数年、県内就職を希望していても、求人が少なく、県外にも多く就職する様になりました。そのため、まさに、さらなる職域拡大の必要性を肌で感じているところでございます。そこで、今回の学会のテーマは、職域拡大に結び付けるための学びの学会として「新しい領域への学び」としました。

まず、シンポジウムでは病院、施設という枠組みを越えて活動していच्छる理学療法士をシンポジストとしてお招きし、活動内容の報告やこれからの理学療法士の新たな分野への提言をしていただきます。また、特別講演では開業医の先生方に、もっとも理学療法士の有用性を知っていただける様に、開業医からみた理学療法士の活用法・雇用・連携についてお話させていただきます。

また、市民公開講座として女優・タレントである河合美智子さんに「リハビリは絶対に楽しんだほうがいい ～脳出血を発症して感じたこと～」をお願いしております。河合さんが脳卒中になって感じた身体感覚や理学療法を受けての感想などを講演いただきます。

その他にも、研究倫理や骨粗鬆症に関するオープンセミナーもご用意していますので、是非、鳥取で学びの秋を体感していただけたらと思います。

米子周辺には大山、鬼太郎ロード、皆生温泉、中海をはじめ多くの観光地があります。近くには国内有数の水揚げのある境港があり、年間を通じて新鮮な魚介類が味わえます。そのほか大山どり、大山おこわ、鳥取牛、地ビールなどおすすが沢山あります。お時間がございましたら山陰の豊かな自然、食、文化を堪能していただけたらと思います。

会員の皆様、また、他職種の方々、市民の多くの方に本学会に参加をいただきますよう、準備委員一同心よりお待ちしております。

目 次

学会長あいさつ

大会次第	1
会場アクセス	2
会場案内	3
参加者の方へ	4
座長・演者の方へ	7
学会奨励賞について／ホームページ上の案内	10
ウェルカム・レセプションのご案内	11
学会日程表	12
プログラム	14

講 演

特別講演1	24
特別講演2	26
シンポジウム	28
オープンセミナー	36
市民公開講座	38

発表演題

指定演題	42
一般演題	44
ポスター演題	62

協賛企業一覧	72
--------------	----

第32回中国ブロック理学療法士学会 組織図

組 織 図	74
-------------	----

広 告	76
-----------	----

歴代会長一覧	80
--------------	----

大会次第

平成30年9月8日(土)

1.開会式

12:30～ 多目的ホール

1) 開会宣言

第32回中国ブロック理学療法士学会 副学会長 松浦 晃宏

2) 挨拶

第32回中国ブロック理学療法士学会 学会長 大床 桂介

3) 祝辞

2.表彰式

開会式終了後 多目的ホール

第31回中国ブロック理学療法士学会 学会奨励賞

演題名 「心不全入院した患者における心不全症状出現前の活動と
退院時の歩行自立との関係 ～UCLA Activity Scoreを用いて～」

地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立安佐市民病院 中村 公則 氏

平成30年9月9日(日)

3.次期学会長挨拶

12:00～ 多目的ホール

第33回中国ブロック理学療法士学会 学会長 宮野 清孝

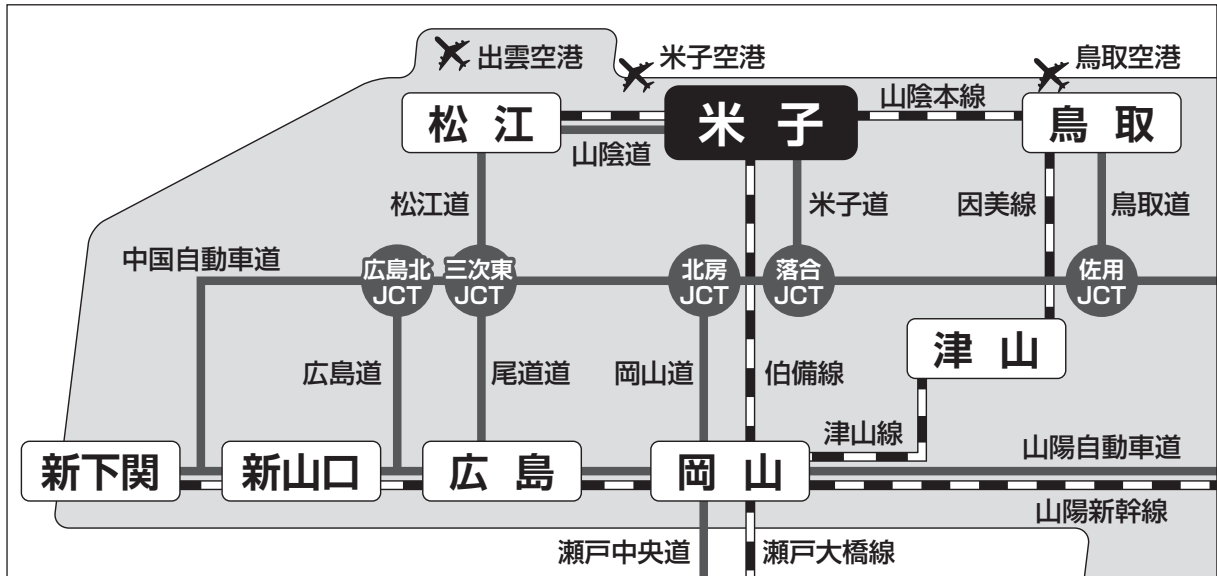
4.閉会式

15:30～ 多目的ホール

閉会の辞

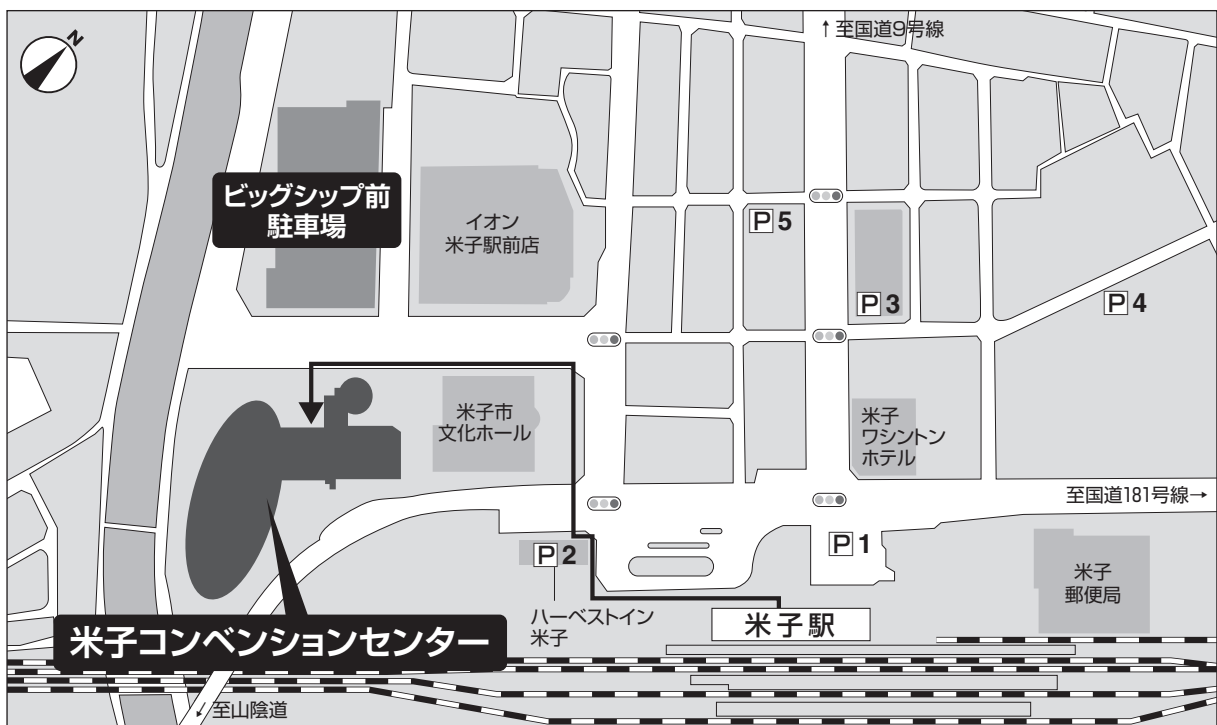
第32回中国ブロック理学療法士学会 副学会長 松本 浩実

会場アクセス



■会場：米子コンベンションセンター BiG SHiP

〒683-0043 鳥取県米子市末広町294 TEL：0859-35-8111



●JR・高速バスをご利用の方 …… JR 米子駅から徒歩 5 分

●お車をご利用の方

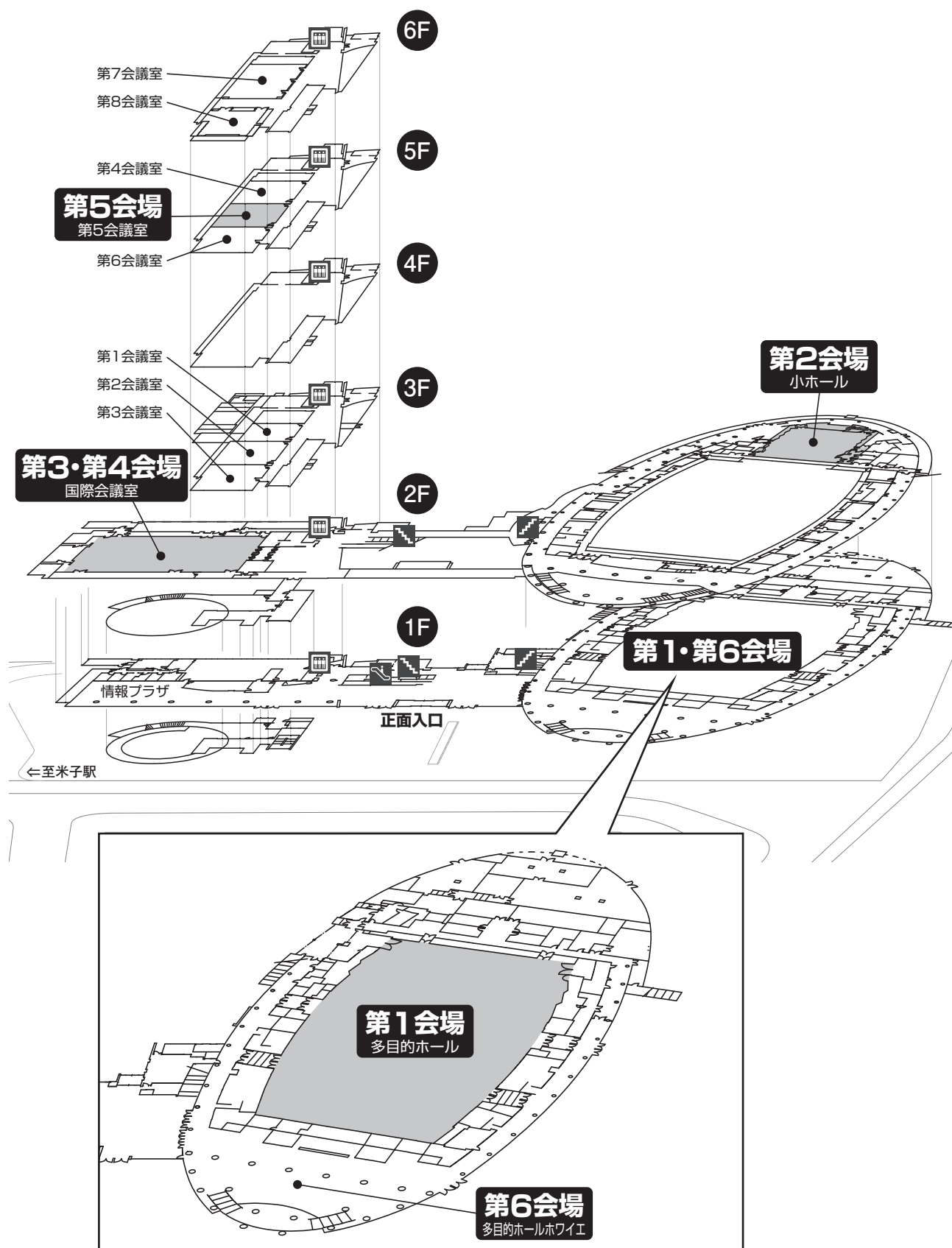
※米子自動車道米子 I.C から山陰自動車道（松江方面行き）経由
米子中 I.C から車で約 5 分

※松江方面からお越しの場合は、米子西 I.C を下りてください

ビッグシップ前駐車場をご利用の方は、駐車券の割引認証機の処理にて、大会開催時間分の駐車料金が無料となります。会場内まで駐車券をご持参いただき、会場ごとに設置されている割引認証機に駐車券をお通し下さい。

〔P〕1 ～ 〔P〕5 は米子コンベンションセンターの近隣の有料駐車場です。こちらの駐車場では利用割引は適用されません。

会場案内



参加者の方へ

当学会は、会員証(右記デザイン：緑色)による会員証明・参加受付・ポイント管理をしております。会員の皆様におかれましては、会員証を当日は忘れずにお持ちください。

※ NICOS カード・楽天カードではありません。

※当日登録・事前登録のどちらであっても忘れずにお持ちください。



1. 参加登録費

- 日本理学療法士協会中国ブロック会員の皆様には事前参加登録を推奨しております。当日登録に比べお安くなります(4,000円が3,000円となります)。
- 当日登録は受付にて現金支払いのみの取り扱いとなります。

参加者種別	事前受付	当日受付
日本理学療法士協会会員(中国ブロック会員) ^{※1}	3,000 円	4,000 円
日本理学療法士協会会員(他ブロック会員) ^{※1}	事前受付できません	5,000 円
日本理学療法士協会非会員		12,000 円
他職種(理学療法士以外)		5,000 円
学生(学生証の提示) ^{※2}		1,000 円

※1 理学療法士資格のある方については、協会への入会予定者であっても、日本理学療法士協会会員としては認められません。事前の入会をお願いします。

※2 学生とは医療系養成校在学者を指しますが、理学療法士の資格がある方は該当しません。参加登録の際は学生証を提示してください。

2. 事前参加登録について(中国ブロック会員のみ)

- 事前参加登録は日本理学療法士協会中国ブロック会員のみ可能なサービスとなります(他ブロック会員・非会員・学生は当日登録のみとなります)。
- A. 日本理学療法士協会指定クレジット払いと B. 日本理学療法士指定バーコード式請求書による支払い(コンビニエンスストア支払い)の2種類の登録方法があります。事前参加登録時にお支払い方法を決定しご登録ください。バーコード式請求書による事前登録は、収納手数料を加算させていただきます。
- 事前参加登録後はキャンセル・返金できませんのでお気をつけください。また、期日内に参加費の支払い確認が取れない場合は、ご登録いただきました事前申込みは無効とさせていただきます。

3. 事前参加登録締め切り(中国ブロック会員のみ)

日本理学療法士協会指定クレジットカード : 平成30年8月29日(水) 23:59

日本理学療法士協会指定バーコード式請求書 : 平成30年8月19日(日) 23:59

※バーコード式請求書支払期日 : 平成30年8月30日(木) 23:59

4. 事前参加登録方法(中国ブロック会員のみ)

- インターネットでのオンライン登録になります。
- 第32回中国ブロック理学療法士学会ホームページ(<https://www.cbpt32nd-tottori.net/>) または、日本理学療法士協会ホームページ(<http://www.japanpt.or.jp/>)内に設置しているマイページにログインし、お申込みください(セミナー番号 16906)。
- オンライン事前登録終了後、日本理学療法士協会よりご登録E-mail アドレスへの受付完了メールが送信されます。(送信には手続き上、時間を要する場合がございます。)このメールは参加の事前登録を証明するものとなりますので、当日まで大切に保管してください。

A. 日本理学療法士協会指定クレジット払い

- 協会指定クレジットカードは楽天カードです(楽天カードは、会員専用マイページからお申し込みください)。
- 参加費の引き落とし日は、楽天カードサイト内にてご確認ください。
- 決済状況はマイページ内よりご確認ください。

※開催1週間前迄にご請求が確定しなかった場合(決済状態が『未納』の場合)は事前参加登録を無効とさせていただきます。必ず事前に決済状況をご確認ください。

B. 日本理学療法士協会指定バーコード式請求書による支払い

- 事前参加登録後、ご登録のご住所へバーコード式請求書を郵送します。その際、収納手数料(270円)を加算させていただきます。請求書裏面記載のコンビニエンスストアにて請求書に記載されている支払い日内にお支払いください。支払期日までにご入金がなかった場合は、事前参加登録を無効とさせていただきます。
- 事前参加申込後、10日以上経過してもバーコード式請求書が届かない場合は協会事務局へご連絡ください。

※請求書が手元に届かなかった場合も、支払期日までに入金ができなければ事前参加登録を無効とさせていただきますので、予めご了承ください。

5. 出張許可願について

- 出張許可願いは、本学会ホームページ(<https://www.cbpt32nd-tottori.net/>)よりダウンロードして使用してください。

6. 会場受付について

- 事前登録の会員の方は、受付にて会員証を提示してください。
 - 新人教育プログラム終了者には、生涯学習ポイント(認定・専門理学療法士)が自動的に付与されます。マイページへの反映は大会終了後(約1ヶ月後)となります。
 - 新人教育プログラム未終了者には生涯学習ポイントは付与されません(新人教育プログラムの単位認定受付は別に行われます)。
- 当日受付の会員の方は、会員証を提示し参加費をお支払い(現金支払いのみ)ください。ポイント付与に関しては下記に準じます。
- 参加登録費領収証は再発行できません。大切に保管してください。

座長・演者の方へ

1. 口述発表・ポスター発表時間と内容

セッション分類	発表形式	発表時間
一般演題	口述発表	発表7分以内、質疑3分以内
	ポスター発表	発表5分以内、質疑：座長采配
指定演題	口述発表	発表10分以内、質疑：5分以内

2. 座長へのお願い

【口述発表（一般・指定演題）担当座長】

- 参加受付を済ませた後、担当セッション開始時刻30分前までに座長受付をお済ませください。
- セッション開始時刻の10分前までに担当セッション会場内の「次座長席」にお越しください。
- 担当セッションの進行は座長へ一任いたします。1演題あたりの発表時間は一般演題7分以内、指定演題10分以内、質疑応答は一般演題3分以内、指定演題は5分以内で執り行っていくようにお願いします。演者に対して発表時間を厳守するように注意を促してください。また、予定時間内に終了するよう調整をお願いいたします。
- 質疑の際は、所属・氏名を確認するようお願いいたします。
- 発表及びディスカッションに対して適切なアドバイスをお願いいたします。
- 一般演題ではセッション終了後、各演者に演題の内容及びディスカッションを含めた総括をお願いいたします。係りの者が誘導いたしますので、ホール横の談話スペースまで速やかに移動をお願いいたします。

【ポスター発表担当座長】

- 参加受付を済ませた後、担当セッション開始時刻30分前までに座長受付をお済ませください。
- セッション開始時刻の10分前までに担当セッション付近に待機してください。
- 担当セッションの進行は座長へ一任いたします。1演題あたりの発表時間は5分、質疑応答は座長の采配で執り行っていくようにお願いします。演者に対して発表時間を厳守するように注意を促してください。また、予定時間内に終了するよう調整をお願いいたします。
- 質疑の際は、所属・氏名を確認するようお願いいたします。
- 発表及びディスカッションに対して適切なアドバイスをお願いいたします。

3. 演者へのお願い

【口述発表（一般・指定演題）演者】

- 口述発表の発表ファイルの事前提出について
 - ・発表ファイルは、第32回中国ブロック理学療法士学会ホームページ「発表ファイルアップロード (<https://www.cbpt32nd-tottori.net/guide/presentationfile/>)」より平成30年8月31日までに提出をお願い致します。

7. 新人教育プログラム、及び生涯学習ポイント(認定・専門理学療法士)について

新人教育プログラム		生涯学習ポイント(認定・専門理学療法士)	
講 演 他	取得対象	履修ポイント	
特別講演Ⅰ	C-3	学会参加	15P
特別講演Ⅱ	C-2	学会発表	5P
シンポジウム	C-5		
学会発表	C-6		

- 新人教育プログラムは学会受付とは別に設けてありますのでご注意ください。

8. 会場内での注意

- 各会場への入場の際には、必ずネームカードの入ったホルダーを首から下げ、確認できるようにしてください。
- 会場内でのカメラ・ビデオ撮影(カメラ付き携帯電話を含む)・録音などは、講演者や発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護のため禁止させていただきます。
- 携帯電話の使用については会場内では必ず電源を切るかマナーモードでご使用ください。プログラム中の通話は禁止させていただきます。
- 施設内禁煙です。
- ホール内は飲食禁止となっておりますので、ご理解・ご協力お願いいたします。米子コンベンションセンター前レストラン「ルポルト」あるいは会場周辺・米子駅前の飲食店等をご利用ください。

9. キッズルームについて

- 学会開催中はキッズルームを準備しています。
- キッズルームのご利用を希望される方は、学会ホームページ(<https://www.cbpt32nd-tottori.net/>)より、平成30年8月31日(金)までにお申し込みください(定員になり次第、締め切らせていただきます)。当日受付は行いませんのでご了承ください。

10. クロークサービスについて

貴重品および雨具等はお預かりできませんので、予めご了承ください。

- クローク場所 : 多目的ホール1階 ホワイエ
- ご利用可能時間 : 9月8日(土) 10:30～20:30
9月9日(日) 9:00～16:00

11. 学会を中止する場合について

台風等の天候不順、その他の理由で学会を中止する場合は、学会ホームページ(<https://www.cbpt32nd-tottori.net/>)にて中止の案内をさせていただきます。ご確認をお願いいたします。

- 発表ファイルのアップロードページにある「発表ファイル作成要項」を必ずご確認ください。
- 当日受付時のスライド修正や変更は一切受け付けません。

○プレゼンテーションデータについて

- 本学会での口述発表は、パソコンとプロジェクターによる発表としています。学会側では OS ; Windows7-PowerPoint 2016 をインストールされた PC を発表用に用意いたします。Macintosh はご使用いただけません。Macintosh 版 PowerPoint で作成したデータは、互換性が損なわれる可能性があります。事前に Windows PC にて文字のずれ等の動作確認を行ってください。
- 音声・動画およびアニメーション機能の使用は禁止とします。
- フォントは OS 標準のもののみ用意いたします。また、以下のフォントを推奨いたします。（日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝 英語：Times New Roman、Arial、Arial Black、Arial Narrow、Century、Century Gothic）特別なフォントをご使用になると、文字・段落ずれ、文字化け、表示されないなどの問題が発生する可能性があります。データを作成した PC 以外で正常に動作するかを事前にご確認ください。
- 発表に使用する PC は全て XGA (1024 × 768) に統一してあります。PowerPoint のスライドサイズを 16 : 9 で作成した場合は上下が切れて小さく表示されることがありますので、スライドサイズは 4 : 3 で作成してください。
- スライドの枚数には制限がありませんが、制限時間内に終了するようにしてください。
- PC 内の発表データは大会終了後運営事務局で完全消去します。

○演題発表について

- セッション開始時刻の 10 分前までに会場内の次演者席へお越しください。
- 1 演題あたりの発表時間は一般演題 7 分以内、指定演題 10 分以内です。発表時間を厳守してください。
- プレゼンテーションの操作は原則、演者に行っていただきます。
- 発表時間の終了 1 分前に「ベル 1 回」、終了時に「ベル 2 回」で合図します。「ベル 2 回後」は速やかに発表を終了してください。
- 一般演題発表者はセッション終了後、座長より演題の内容及びディスカッションを含めた総括があります。係りの者が誘導いたしますので、ホール横の談話スペースまで速やかに移動をお願いいたします。

【ポスター発表演者】

- 該当するポスターパネルに演題番号と画鋏、演者リボンを学会側で用意いたします。
- 演者受付は行いません。ポスター貼付時間内に指定のパネルへポスターを貼付してください。
- ポスター貼付・撤去について

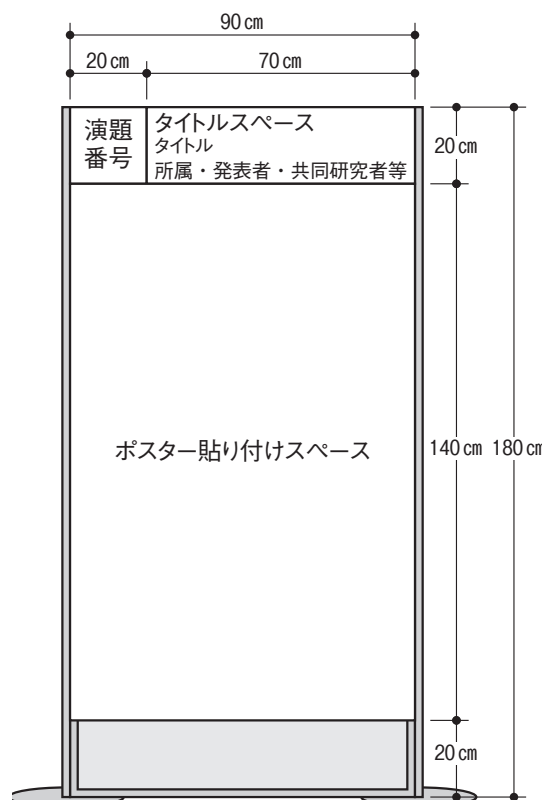
日 付	貼り付け
9月8日(土)	10:30～12:30
9月9日(日)	9:00～10:30

ポスターは指定された時間内に自身の演題番号のパネルに貼付してください。

発表後は、撤去せずに貼り付けたままをお願いいたします。自身で持ち帰る場合には、学会会場受付にお申し出ください。

学会終了後に残っているポスターに関しては、学会運営部で撤去し処分いたします。

- ポスター掲示には、ポスターパネルを図のように用意いたします。掲示スペースは縦140cm×横90cmとします。パネル左上に演題番号を学会側で用意いたします。その右に縦20cm×横70cmのサイズ内で演題タイトル・発表者氏名・共同演者氏名・所属を表記してください。
- 演者リボンを胸の見える所に付け、発表開始時刻10分前に各自ポスター前に待機してください。
- 発表時間は5分以内となっています。質疑応答は、座長の采配で執り行います。



4. その他、注意点について

- 質問の際は、必ず所属と名前を告げ座長の指示に従って簡潔明瞭に質疑を行ってください。
- 座長・演者が不測の事態で発表時間に間に合わない場合は、速やかに「中国ブロック理学療法士学会事務局」(0858-24-6930)にご連絡ください。万が一ご連絡がない場合は発表を放棄したものと判断いたします。

学会奨励賞について

中国ブロックにおける学術研究の発展と奨励のために、若手会員（40歳未満）の優秀な業績に対して学会奨励賞として表彰いたします。年度毎の中国ブロック理学療法士学会で発表された全演題の中から1～2演題選出し、その筆頭演者に贈呈いたします。受賞者の決定は、選考委員会の推薦に基づき学会長が行います。賞の贈呈は発表の次年度の中国ブロック理学療法士学会において、前年度学会長が行います。

ホームページ上の案内

第32回中国ブロック理学療法士学会ホームページ (<https://www.cbpt32nd-tottori.net>) 上に、抄録集のPDFデータを掲載いたします。ぜひご活用ください。



ウェルカム・レセプション

～鳥取県理学療法士会より参加者の皆様へ～

美味しい料理とお酒を飲みながら理学療法士の未来について大いに語り合いませんか？

日頃思っていることや困っていること、伝えたいことをこの機会に他県の仲間と分かち合いたいしょう。

新人も経験者も関係なく楽しい会にしたいと思っていますので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

♪ 日 時：9月8日(土) 19:00～ (受け付け開始 18:30～)

♪ 会 場：米子コンベンションセンター 1F ホワイエ
(学会会場から移動はありません)

♪ 参 加 費：5,000円

※参加費のお支払いは、
当日会場の受付にてお願いいたします



申し込み方法 / 問い合わせ

(E-mail : cbpt32nd.reception@gmail.com レセプション担当：小松)

E-mail からの申し込みの場合

件名を「レセプション参加」として①氏名 ②会員番号 ③所属県士会を明記の上、上記のアドレスまでお送りください。

専用フォームからお申し込みの場合

右の QR コードを読み取り、必須事項を入力の上、お送りください。
(1人分のみ申し込み可)



締め切り：8月18日(土)

申し込み後のキャンセルは8月25日(土)までに E-mail にてご連絡ください。

1日目 9月8日(土)

	第1会場 多目的ホール	第2会場 小ホール	第3会場 国際会議室 A	第4会場 国際会議室B	第5会場 第5会議室
10:00					10:00 ～ 12:00 ブロック理事会
10:30	受付開始		10:30～12:30		
11:00	11:00～12:00 オープンセミナー 1 多職種で学ぶ骨粗鬆症 リエゾンサービス 松本 浩実、橘田 勇紀、 佐伯 由美	11:00～12:00 オープンセミナー 2 臨床研究の基礎 ～研究倫理と方法論～ 遠藤 佑輔	ポスター貼付		
12:00					
12:30	12:30～13:00 開会式・表彰式				
13:00	13:00～15:00 シンポジウム 川内 雅和 福谷 直人 上岡 奈美 森本 宙			13:00 ～ 18:00 機 器 展 示	
14:00					
15:00	15:10～16:00 口述演題 I 運動器 I O-01～05	15:10～16:00 口述演題 II 生活環境 I O-06～10	15:10～16:00 ポスター演題 I 神 経 P-01～05		
16:00	16:10～17:00 口述演題 III 内部障害 O-11～15	16:10～17:00 口述演題 IV 神 経 O-16～20	16:00～16:50 ポスター演題 II 運動器 I P-06～10		
17:00	17:10～18:20 特別講演 1 内科クリニックでの理学 療法士の役割と今後に 期待すること 太田 匡彦 (さとに田園クリニック)				
18:00					
18:30	～	レセプション受付 場所：第6会場(多目的ホール ホワイエ)			
19:00	19:00～	レセプション 場所：第6会場(多目的ホール ホワイエ)			

2日目 9月9日(日)

	第1会場 多目的ホール	第2会場 小ホール	第3会場 国際会議室 A	第4会場 国際会議室B	第5会場 第5会議室
9:00	9:00～ 受付開始		9:00～10:30		
10:00	9:30～10:20 口述演題 V 運動器 2 O-21～25	9:30～10:20 口述演題 VI 教育・管理 O-26～30	ポスター貼付	9:30 } 15:00 機 器 展 示	
11:00	10:30～12:00 特別講演 2 整形外科クリニックにおける 医師と理学療法士のチーム 医療 豊田 耕一郎 (とよた整形外科クリニック)				
12:00	12:00～ 次期学会長挨拶				12:00 } 13:00 担 当 者 会 議
13:00	12:50～14:20 指 定 演 題 D-1～5	12:50～13:40 口述演題 VII 生活環境 2 O-31～35	12:50～13:40 ポスター演題 III 運動器 2 P-11～15		
14:00			13:40～14:30 ポスター演題 IV 生活環境・内部障害 P-16～20		
15:00	14:30～15:30 市民公開講座 河合 美智子				
16:00	15:30～15:50 閉 会 式				
17:00					

プログラム

特別講演 1

9月8日(土) 17:10～18:20 第1会場(1F 多目的ホール)

座長：宮川 孝芳(鳥取市医療看護専門学校)

内科クリニックでの理学療法士の役割と今後に期待すること

太田 匡彦 さとに田園クリニック 院長

特別講演 2

9月9日(日) 10:30～12:00 第1会場(1F 多目的ホール)

座長：大床 桂介(YMCA 米子医療福祉専門学校)

整形外科クリニックにおける医師と理学療法士のチーム医療

豊田 耕一郎 とよた整形外科クリニック 院長

シンポジウム

9月8日(土) 13:00～15:00 第1会場(1F 多目的ホール)

座長：松本 浩実(川崎医療福祉大学 医療技術学部)

理学療法士による新たな価値の創造

～理学療法士として新たな分野で活躍している方々からのメッセージ～

商業施設での総合事業

川内 雅和 LICOS 代表、枚方市通所・訪問リハビリテーション連絡協議会 会長
大阪府枚方市介護認定審査員

ポケットセラピストが描く理学療法士の未来

福谷 直人 株式会社バックテック 代表取締役

地域に発信『からだの根っこ作り』

上岡 奈美 医療法人社団おると会 浜脇整形外科病院

自立支援の視点を活かした介護サービスの展開

森本 宙 株式会社ライオンハート 代表取締役

オープンセミナー1

9月8日(土) 11:00～12:00 第1会場(1F 多目的ホール)

多職種で学ぶ骨粗鬆症リエゾンサービス

1. ミニレクチャー

運動療法による骨折予防のエビデンス

松本 浩実 川崎医療福祉大学 医療技術学部 講師

2. 骨粗鬆症リエゾンサービス 取り組み報告

骨折一次予防を目的とした骨粗鬆症リエゾンサービス

橘田 勇紀 鳥取大学医学部附属病院 理学療法士

当院における骨粗鬆症リエゾンサービスの取り組み

佐伯 由美 鳥取大学医学部附属病院 看護師

オープンセミナー2

9月8日(土) 11:00～12:00 第2会場(2F 小ホール)

臨床研究の基礎 ～研究倫理と方法論～

遠藤 佑輔 鳥取大学医学部附属病院 新規医療研究推進センター 特命講師

市民公開講座

9月9日(日) 14:30～15:30 第1会場(1F 多目的ホール)

座長：松浦 晃宏(大山リハビリテーション病院)

リハビリは絶対に楽しんだほうがいい

～脳出血を発症して感じたこと～

河合 美智子 女優・タレント

- D-1** 保険外事業の可能性と役割
—利用者アンケートからみるニーズと専門スキルを活かすインフラの必要性—
栗山 努 株式会社アール・ケア アール・ケアコンディショニングセンター
- D-2** 理学療法士による学校現場での運動指導の効果
—運動機能及び傷害発生件数に着目して—
川本 晃平 島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部
- D-3** 広島大学病院スポーツ医科学センターにおける障がい者スポーツ分野の
医科学サポート
平田 和彦 広島大学病院 スポーツ医科学センター
- D-4** 極低出生体重児における1歳6ヵ月・3歳時の問診評価と6歳時発達の関連
儀間 裕貴 鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター、
東京大学大学院 教育学研究科
- D-5** 心臓弁膜症による心不全患者のイベント発生因子の検討
—予防理学療法に向けた後ろ向きコホート研究—
三浦 正和 山口県立総合医療センター リハビリテーション科

- O-01** 関節リウマチ患者における関節保護の認知度調査 ～現状と課題～
草野 達也 日本赤十字社 鳥取赤十字病院
- O-02** 回復期リハビリテーション病棟入院時の脳卒中患者における
低骨量関連因子の検討
橘田 勇紀 鳥取大学医学部附属病院 リハビリテーション部
- O-03** CTナビゲーションシステムを使用したTHA術後患者のQOLについての調査
近藤 真広 浜脇整形外科リハビリセンター リハビリテーション科
- O-04** 超高齢女性における大腿骨近位部骨折の手術法の違いによる自宅復帰への影響
大岡 恒雄 マッターホルンリハビリテーション病院、広島大学大学院医歯薬保健学研究科
- O-05** 人工膝関節全置換術後患者における退院後の健康関連 QOL と
在院時運動浴実施率の関係
松本 厚一 鳥取県中部医師会立 三朝温泉病院

O-06 認知症高齢者の足趾把持力とバランス能力、身体組成との関連性(第1報)

中村 萌子 医療法人ピーアイエー 老人保健施設まいえ

O-07 介護職員の腰痛回避行動の実施に影響する身体・心理社会的要因の検討

溝口 桂 JA 山口厚生連 周東総合病院 リハビリテーション科

O-08 超高齢者にいたる身体機能の推移

島 俊也 にいたにクリニック リハビリテーション科

O-09 訪問看護・リハビリ介入による介護度変化

樺島 広貴 株式会社アール・ケア 訪問看護ステーション ママック

**O-10 地域高齢者における転倒発生に対する下肢筋肉量の関与
—GAINA study での3年間前向きコホート調査—**

中祖 直之 大山リハビリテーション病院

O-11 肺切除術後の6分間歩行距離短縮は術後1年以内の再入院に影響する

馬庭 春樹 松江赤十字病院 リハビリテーション科

**O-12 糖尿病患者の運動実態と関連要因の検討
～フィリピン、マニラでの取り組み～**

森田 鉄二 鳥取県中部医師会立 三朝温泉病院 リハビリテーション科、
鳥取大学大学院医学系研究科 保健学専攻 博士前期課程

**O-13 心肺停止となった急性心筋梗塞患者に心リハ実施し、
1ヶ月で自宅復帰した一症例**

堂垣 奈津香 日本赤十字社 岡山赤十字病院 リハビリテーション科

**O-14 重症大動脈弁狭窄症を有す虚弱高齢心不全患者に対し、
運動療法を実施し有害事象無く ADL 改善を認めた一症例
多職種連携下で低負荷強度インターバルトレーニングを導入して**

荒木 直哉 NHO 岩国医療センター リハビリテーション科

**O-15 若年健常者における運動強度(METs)の検討
実測値と推測値の比較**

河本 佳佑 共済会 清水病院

O-16 脳卒中患者における回復期リハビリテーション病棟退棟時の歩行自立可否予測
—入棟時の簡易な情報を用いた決定木分析による検討—

妹尾 祐太 倉敷平成病院 リハビリテーション部 理学療法科

O-17 脳卒中片麻痺患者に対する歩行練習が左右対称性に与える効果

上野 正寛 山口リハビリテーション病院

O-18 パーキンソン病におけるすくみ足誘発法の検討

澤田 誠 国立病院機構 鳥取医療センター リハビリテーション科、
鳥取大学医学部 脳神経内科

O-19 重症心身障害児者に対する排痰補助装置が経皮的動脈血二酸化炭素分圧へ
及ぼす影響

三嶋 可奈子 鳥取県立総合療育センター

O-20 経頭蓋直流電気刺激による障害物回避歩行における二重課題コストの軽減効果

篠田 亮平 医療法人社団昌平会 大山リハビリテーション病院

O-21 大腿骨転子部骨折例における歩行能力に影響を与える要因
術後運動機能は骨折型から独立して歩行能力と関連するか？

川端 悠士 JA 山口厚生連 周東総合病院 リハビリテーション科

O-22 高齢者の歩行時体幹加速度と身体機能の関連性
—iPhone 三軸加速度アプリを用いた測定—

岩本 祐輝 鳥取県中部医師会立 三朝温泉病院

O-23 構え姿勢での母趾球荷重が側方への全身選択反応時間に及ぼす影響

小林 怜司 広島大学大学院医歯薬保健学研究科

O-24 骨粗鬆症患者の骨折既往の有無による身体能力と筋力の比較

田部 伶佳 マツダ株式会社 マツダ病院 リハビリテーション科

O-25 足部筋厚が内側縦アーチに及ぼす影響

千歳 柚衣子 医療法人 育生会 高島病院

- O-26** 理学療法教育における模擬患者演習のアウトカム評価
—学生と臨床実習指導者との評価結果の比較について—
梅井 凡子 公立大学法人 県立広島大学保健福祉学部 理学療法学科
- O-27** 広島県理学療法士学会における経験年数別参加率と不参加理由のアンケート調査報告
石田 勝 公益社団法人 広島県理学療法士会 学術局、
興生総合病院 リハビリテーション部
- O-28** 在宅看取りに関する多職種連携研修会は「在宅看取り」と
「理学療法士の役割」のイメージ変容に有効である
学生及び若手理学療法士に対するインタビューを用いた質的研究
田原 岳治 医療法人社団増原会 東城病院
- O-29** 新人PTに対する workplace based assessment を用いたプリセプターシップは、
入職後の心理的負担を軽減させる
山下 昌彦 倉敷平成病院 リハビリテーション部 理学療法科
- O-30** 帰宅後の時間的余裕が良質な実習を生み出す可能性
—臨床実習での課題内容変更からみえてきた効果—
宍戸 健一郎 社会医療法人清風会 五日市記念病院 技術部 リハビリ技術科

- O-31** 通所介護サービス利用者における2ステップテストとバランス評価との関係
小島 一範 総合在宅ケアサービスセンター児島 訪問看護ステーション児島
- O-32** ティルト・リクライニング車椅子による重度褥瘡患者に対するアプローチ
～座圧測定にて評価、活動・参加領域が拡大した一症例～
若槻 純 医療法人養和会 養和病院
- O-33** リフトによる座位姿勢改善とポジショニングでの筋緊張低下により
車椅子自操ができた難病症例 ～本人の“自分で動きたい”を叶える～
藍田 翔太 医療法人養和会 訪問看護ステーション仁風荘
- O-34** JR 新駅におけるバリアフリー
JR あき亀山駅と JR 寺家駅との比較
新川 涼子 和光整形外科スポーツクリニック
- O-35** 3回目の褥瘡術後、脊髄損傷者の復職・車椅子バスケット再開に向けた
理学療法の経験
小西 香菜子 医療法人養和会 養和病院

- P-01** 慢性期脳卒中患者に対し短時間の歩行神経筋電気刺激を短期間実施し歩行能力の改善を認めた症例
秦 彩佳 社会医療法人清風会 廿日市記念病院
- P-02** ウォークエイドを用いた歩行練習を通して、立位姿勢の安定化を認めた症例
前田 貴志 社会医療法人清風会 廿日市記念病院
- P-03** 重度の屈曲共同パターンを呈したが電気刺激療法の併用により歩行を獲得できた症例
伊藤 拓也 社会医療法人 清風会 五日市記念病院 技術部 リハビリ技術科
- P-04** 慢性疼痛を有するパーキンソン病患者に対する脊髄刺激療法が疼痛・歩行機能に及ぼす影響
新免 利郎 倉敷平成病院 リハビリテーション部 理学療法科
- P-05** 前庭への経頭蓋直流電気刺激による歩行制御応答について
吉野 開 医療法人社団昌平会 大山リハビリテーション病院

- P-06** Total Knee Arthroplasty 患者における Continuous Passive Motion 使用の有無が術後運動機能に与える影響
三浦 正和 山口県立総合医療センター リハビリテーション科
- P-07** 骨盤骨折後、膝関節の疼痛が歩行獲得の阻害因子となった症例ーフィードフォワード機構に着目してー
坂本 隆徳 医療法人紅萌会 福山記念病院
- P-08** 骨粗鬆症患者に対する運動指導が運動機能に及ぼす影響
青木 辰徳 マツダ株式会社 マツダ病院 リハビリテーション科
- P-09** 閉眼片脚立位時間と片脚ドロップジャンプ着地時の姿勢制御の関係
竹内 拓哉 広島大学大学院 医歯薬保健学研究所 スポーツリハビリテーション学研究室
- P-10** 変形性膝関節症の股関節内転・内旋の可動域と歩行への影響についてーR1とR2を比較してー
中島 幸生 医療法人社団伯瑛会 のぞみ整形外科ヒロシマ

- P-11** 高齢で光覚弁を有していたが在宅での大腿義足歩行が可能となった症例
岩本 晃一 地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立リハビリテーション病院
- P-12** 音楽聴取が運動後の脈拍の回復に与える影響
男女差に着目して
庄司 直哉 医療法人社団八千代会 メリィホスピタル
- P-13** 当院における転倒・転落発生件数を減少させる取り組み
～転倒・評価シートを作成して～
転倒・転落アセスメントシートを作成して
平本 剛史 マツダ(株)マツダ病院 リハビリテーション科
- P-14** 特別支援学校の児童及び卒業生を対象にしたスポーツ活動における
理学療法士の役割
皆生スポーツ広場の活動を通じて
小笹 智史 医療法人養和会 養和病院
- P-15** 長期の腰痛から他部位へ複数の症状を有した患者に対し、
マネジメントを行うことで改善に至った1報告
林 慎一 とよた整形外科クリニック

- P-16** 認知症高齢者の口腔内状態、周径とその他の身体機能との関連性(第1報)
一原因疾患による検討一
平岩 和美 広島都市学園大学
- P-17** 体外衝撃波療法の部位別除痛効果
岩政 亮平 医療法人明笑会 やすもとクリニック
- P-18** TEVAR 後に対麻痺を合併したが歩行獲得が可能であった一症例
二宮 一也 社会医療法人社団十全会 心臓病センター榊原病院
- P-19** 入退院を繰り返す慢性心不全患者に対し活動量を制限した結果、
再入院時に ADL 低下をきたした一症例
行天 皐記 社会医療法人社団十全会 心臓病センター榊原病院
- P-20** 栄養状態に問題があり、離床時の負荷量の見直しが身体機能の維持に
寄与したと考えられる一症例
藤内 研介 医療法人三恵会 榊原病院

講演





内科クリニックでの理学療法士の役割と 今後に期待すること

太田 匡彦

さとに田園クリニック 院長

当院は、内科・泌尿器科・腎臓内科・透析を標榜し、2007年4月に開業した。医療は当初から透析が大きなウェイトを占めてきたが、高齢化に伴う患者背景の変化や慢性腎臓病(CKD)や糖尿病(DM)の重症化予防対策の普及につれて、医療介護連携や多職種連携といった外来診療の在り方が非常に重要となっている。透析医療はこれまで生命予後の改善に重点が置かれてきたが、今は透析患者の健康寿命の延伸が求められる。そのために良質な透析療法は当然必須ではあるが、透析導入前から十分に管理を行うCKD治療が患者にとって重要である。透析導入の原因疾患はDMや腎硬化症など生活習慣病に起因するものが過半数を占め、患者数は毎年増加しているとともに患者の高齢化も進んでいる。高齢化社会を迎え、認知症患者、要介護者、独居老人、老々介護者の増加など特有の問題が顕在化する中、DMやCKDは心血管合併症のハイリスクであり、高齢の心血管病患者の増加が医療をさらに難しくさせる。これらの疾患は、食事、生活習慣、服薬など自己管理が重要であるが、日々外来診療の中で通院や管理が困難な高齢患者の増加を実感している。急な患者背景の変化を目の当たりにして、患者の病気を治す医療だけではなく、患者の人生を支える総合的な医療の必要性を痛感し、地域の専門的クリニックではなく、専門性も活かしつつ総合的なかかりつけ医へと方向転換を図った。地域包括ケアづくりの中で医療介護連携や多職種連携が重要なのは間違いないが、地域の高齢者の中には、専門的な医療管理を要する困難事例も多く、医師がコンダクターとして多職種をまとめ、患者を支えるしぐみに積極的に関与すべきだと考える。当院は、平成25年5月から、有料老人ホーム、訪問介護ステーション、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを開設し、介護・在宅訪問事業を展開してきた。そこには理学療法士を中心に多職種のスタッフ関わっている。CKDやDMの高齢患者はフレイルのハイリスクであり、筋肉量減少と筋力低下を特徴とするサルコペニアの主な原因疾患である。DMや心血管病に対する運動療法の重要性は広くエビデンスとして認識されているが、近年CKDへの運動療法による腎保護作用の報告が増えている。フレイル対策やサルコペニア治療には、運動療法は必須であり、DMやCKDの重症化予防のためにも、当院の医療の中で、リハビリや運動療法は欠かせない分野となった。去年4月に疾病運動予防施設としてメディカルフィットネスジムを開設した。現在、理学療法士が16名いるが、各事業所に配置し、運営に関わっている。また、2年前から保存期CKD患者や透析患者のために腎臓リハビリテーションの取り組み

も始めた。理学療法士を中心に、患者への運動指導や透析中の運動療法を実施している。当院のメディカルフィットネスジムや運動教室プログラムなども利用しながら、多職種の関わりや連携を促している。今回我々は、地域の総合的かかりつけ医として、また腎臓専門医、糖尿病専門医の立場もふまえ、当院の理学療法士のかかわりと活躍を紹介する。

略 歴

学 歴

昭和59年3月 鳥取県立鳥取西高等学校普通科 卒業
平成4年3月 奈良県立医科大学 卒業

職 歴

平成5年7月 大阪回生病院 泌尿器科
平成6年7月 済生会中和病院 泌尿器科
平成13年1月 奈良県立五條病院 泌尿器科医長・人工透析室長
平成16年1月 済生会御所病院 泌尿器科医長
平成17年2月 鳥取県立中央病院 泌尿器科
平成18年4月 同 泌尿器科医長
平成19年3月 同 退職
平成19年4月 さとに田園クリニック 開業、院長

さとに田園クリニック 沿革

平成19年4月1日 さとに田園クリニック 開院
平成22年10月1日 個人事業から医療法人へ
平成25年5月1日 住宅型有料老人ホーム さとにメディケアホームいろり 開設
さとに訪問介護ステーション 開設
平成26年2月1日 さとに居宅介護支援事業所 開設
さとに訪問看護ステーション 開設
5月1日 さとに通所リハビリテーション 開設
平成27年3月1日 さとに訪問看護ステーション(介護予防)開設
平成28年5月23日 住宅型有料老人ホーム さとにメディケアホーム菜のか 開設
6月1日 さとにメディケアホームいろり(住宅型有料老人ホームから
地域密着型特定施設入居者生活介護へ指定変更)
8月1日 さとに訪問リハビリテーション 開設
9月1日 さとに通所リハビリテーション 移転オープン
平成29年4月3日 メディカルフィットネス あるく・すたじお 開設
11月1日 さとに訪問看護ステーション八頭支所
さとに訪問リハビリテーション八頭支所 サテライト事業所
開設

発表演題



D-1 保険外事業の可能性と役割

—利用者アンケートからみるニーズと 専門スキルを活かすインフラの必要性—

○栗山 努

株式会社アール・ケア アール・ケアコンディショニングセンター

Key word：保険外、インフラ整備、専門スキル

【はじめに】昨今継続的な身体的リハビリテーションの実施は困難であり、介護保険事業を含めて身体機能へのアプローチから動作・活動を見つめる介入も少なくならざるを得ない実情がある。

高齢者人口増加と労働人口減少に備えるべく理学療法士の健康維持・傷病予防において期待が高まる中、成果が求められている。また、運動器疾患と思われる症状を呈する方において治療方法の選択、初期行動が適切になされることは重症化を防ぐことにつながる。

当社は3年前より、健康増進・予防サービス事業としてパーソナルフィットネス施設を開設し、理学療法士を配置した。

実施対象として一般健常者に加えて脳血管障害者、運動器疾患症状を有する者、扁平足など足部機能低下者において医療機関での治療が終了または自宅療養になった者、医療機関未受診の方々への対応を行っている。

当施設利用者のアンケート結果および介入事例を通じて保険外事業の役割と国民の健康増進に資する可能性について述べる。

【方法】H29～H30年に当施設を3回以上利用し、同意が得られた脳血管障害（10名）および運動器疾患症状を有する方（26名）36名（男性12名、女性38名、介護保険要介護認定者における平均介護度：要介護2.27*¹運動器疾患症状者に限っては平均要介護度1.0）を対象に開始時間診・アンケート内容を集計。また週1回以上の利用（60分/回の対応、平均利用回数1.15回/週）で2ヶ月以上利用した方30名の状態変化および主観的認識の変化を集計。

*1 要支援を0.5とした平均値

【結果】

- ・対照群は約1年前から症状を呈しており、運動器症状において最初の選択施設は近くの治療院が多い。
- ・機能面・症状軽減のニーズは高い。
- ・医療機関受診後も対症療法が大半を占め理学療法実施はなされていない。
- ・介護保険通所事業においては軽度者はマシンまたは徒手によるストレッチ及び筋力強化エクササイズが多く症状の要因となる機能的問題への働きかけは少ない。
- ・若年者の身体的リハをフォローするインフラがない。
- ・運動器症状は構造ではなく機能的問題が多い。
- ・適切な介入はニーズを満たす。

【結論】疾患別理学療法の上限日数を超えた状態、または外来リハの適応外であっても理学療法士が専門性を活かして個別介入することは機能向上、重症化防止に有益でありニーズも高い。また、初期段階から理学療法士が介入、相談に応じられる体制が未整備である。

理学療法士がその専門性を活かし国民の役に立つためには、健康保険制度外にてコンプライアンスを遵守した新たなサービスインフラの必要性が感じられる。

【倫理的配慮、説明と同意】アンケート結果は個人の同意を得ると共に社内倫理委員会の承認を得た。

D-2 理学療法士による学校現場での運動指導の効果

—運動機能及び傷害発生件数に着目して—

○川本 晃平¹⁾、芹田 祐²⁾、妹尾 翼²⁾、松本 拓也¹⁾、
門脇 俊³⁾、内尾 祐司³⁾

- 1) 島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部、
- 2) デイサービス & コンディショニングセンター アトリ、
- 3) 島根大学医学部 整形外科

Key word：学校現場、運動指導、傷害発生件数

【はじめに】運動器の10年・日本協会ではスクールトレーナー制度を提唱しており、理学療法士（以下、PT）の活用が想定されている。これに先駆け、我々は平成24年より学校現場に出向き、児童・生徒に対してPTが運動指導を行うことで傷害予防を試みる取り組みを開始した。海外ではPTによる専門的な運動指導によって傷害の発生率が減少したとの報告があるものの、本邦において同様の報告は見当たらない。

本研究の目的は、学校現場におけるPTによる運動指導が運動機能の改善及び傷害発生件数の減少に有効であることを明らかにすることである。

【方法】対象は小学校1校の5、6年生の児童62名（男子30名、女子32名）とした。測定項目は立位体前屈、足関節背屈角度、踵殿間距離、片脚立位時の重心動揺総軌跡長、足趾把持力、股関節屈曲筋力、足部内側縦アーチとし、介入前後に測定した。介入方法は整形外科専門医の指導・助言の下、体育時間（1回20分）に月2回、3ヵ月間（計5回）の運動指導をのべ4人のPTによる全体指導にて実施した。指導内容は下肢ストレッチング、下肢・体幹の筋力トレーニング、バランストレーニング、足趾トレーニングとした。さらに介入前3ヵ月間と介入後3ヵ月間の学校生活で発生した傷害件数及び傷害の種類を調査した。傷害の種類はIOCのSports Injury Surveillance Systemを参考に分類した。

統計学的分析は介入前後の各項目の比較にWelchのt検定用い、危険率5%未満を有意差ありとした。

【結果】運動機能項目において介入前後で有意に改善したのは、立位体前屈（介入前 -2.4 ± 7.6 cm/介入後 -4.6 ± 7.6 cm、 $p=0.01$ ）、足関節背屈角度（ $13.3 \pm 5.7^\circ/21.8 \pm 7.1^\circ$ 、 $p=0.01$ ）、踵殿間距離（ 12.0 ± 5.7 cm/ 4.1 ± 3.9 cm、 $p=0.01$ ）、片脚立位時の重心動揺総軌跡長（ 72.1 ± 18.3 cm/ 63.4 ± 15.8 cm、 $p=0.01$ ）、足趾把持力（ 9.3 ± 3.2 kg/ 14.8 ± 4.7 kg、 $p=0.01$ ）、股関節屈曲筋力（ 1.4 ± 0.5 N/kg/ 1.9 ± 0.5 N/kg、 $p=0.01$ ）であった。一方、足部内側縦アーチ（ $12.2 \pm 2.7\%/12.8 \pm 1.9\%$ 、 $p=0.05$ ）は変化がなかった。

傷害発生件数は介入前3ヵ月間が59件、介入後3ヵ月間が10件と介入後で減少した。傷害の種類は裂創/皮膚傷害（介入前28件/介入後5件）、打撲/血腫/挫傷（27件/4件）、捻挫（3件/1件）、骨折（1件/0件）であった。

【考察】本研究では月2回の学校への介入で柔軟性、筋力、バランス能力が向上することが示された。介入後に傷害発生件数が減少したものの、運動機能の向上との因果関係を明らかにするには至っておらず、更なる検討が必要である。PTがスクールトレーナーとして学校に介入することで、児童・生徒の運動器の健康推進や健全な心身の成長、発達に寄与できるものと期待される。

【結論】PTによる運動指導は身体機能の向上に有効で、傷害発生件数を減少させる可能性がある。

【倫理的配慮、説明と同意】本研究にあたり、対象者のデータを匿名化し、研究以外では使用しないことを説明し、同意を得た。また島根大学医学部医の倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号2894号）。

協賛企業一覧

- インターリハ株式会社
- 株式会社ウィードメディカル
- 株式会社ニシウラ
- 酒井医療株式会社
- 日本エスタ株式会社
- 株式会社ホーマーイオン研究所
- 有限会社ホームケア渡部建築
- 鳥取市医療看護専門学校
- YMCA 米子医療福祉専門学校

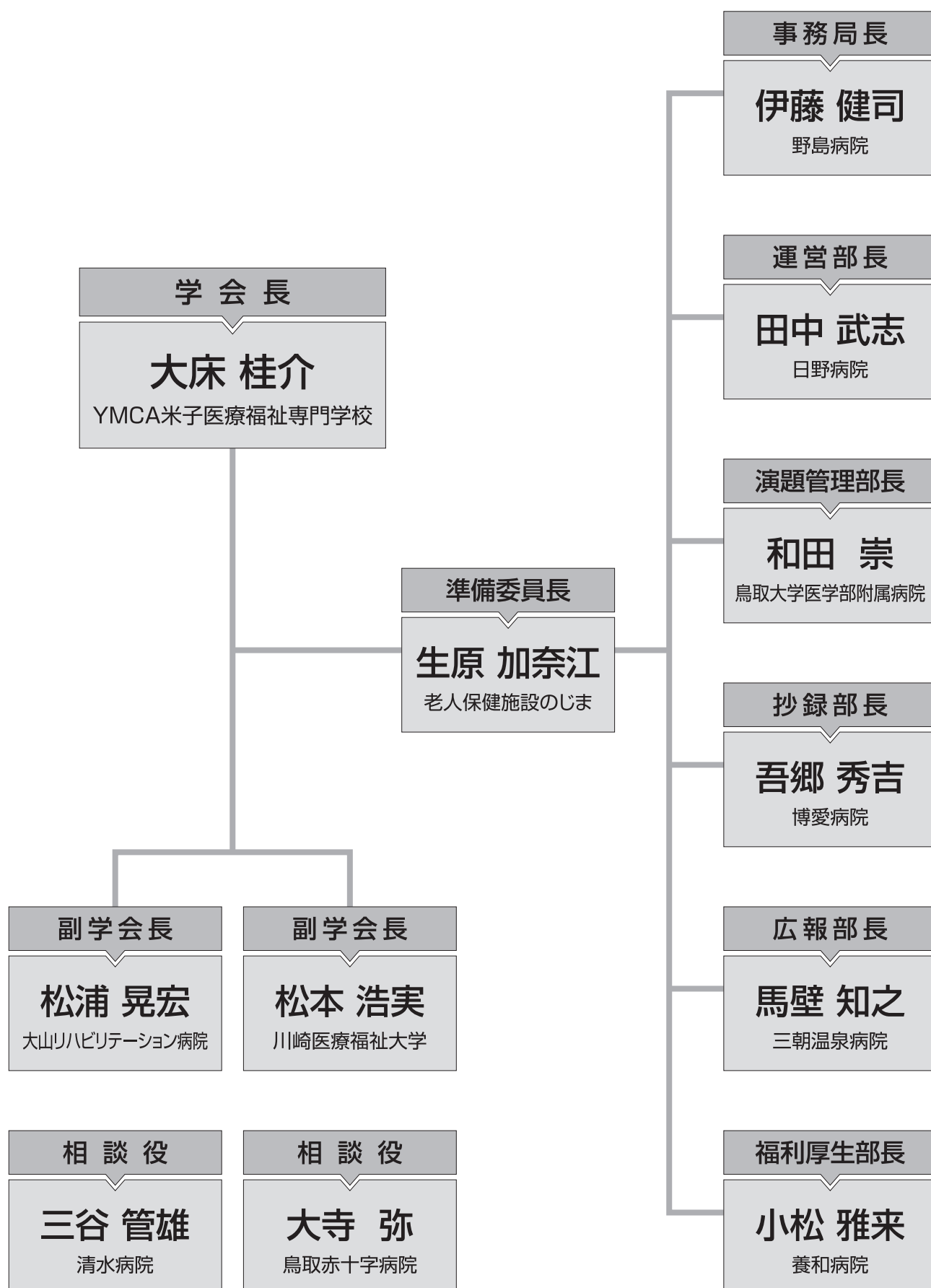
(順不同)

第32回中国ブロック理学療法士学会

組 織 図



組 織 図



告 廣



中国ブロック理学療法士学会 歴代会長

開催回数	開催県	開催都市	開催会場	学 会 長
第 1 回	広島県	広島市	広島市婦人教育会館	佐々木久登
第 2 回	鳥取県	米子市	皆生温泉弓ヶ浜荘	御厨征一郎
第 3 回	山口県	山口市	山口県共済生協研修福祉センター	中島 敏和
第 4 回	島根県	出雲市	ラピタ3 階 A ホール	錦織 清
第 5 回	広島県	福山市	中央公民館	田中 潤
第 6 回	岡山県	倉敷市	川崎医科大学現代医学教育博物館	森 剛士
第 7 回	鳥取県	米子市	ホームサムインかいけ	御厨征一郎
第 8 回	山口県	宇部市	山口大学医学部第3講義室	吉村 静馬
第 9 回	島根県	出雲市	ラピタウェディングパレス	戸山 茂
第10回	岡山県	倉敷市	川崎医科大学現代医学教育博物館	泉水 光輝
第11回	広島県	広島市	中国電力本社ビル	富樫 誠二
第12回	山口県	新南陽市	新南陽市社会文化ホール	砥上 恵幸
第13回	鳥取県	米子市	米子市福祉保健総合センター	山崎 和朗
第14回	島根県	出雲市	ビックハート出雲	岩田 章史
第15回	岡山県	倉敷市	川崎医療福祉大学	岩田 清治
第16回	広島県	広島市	広島大学	隅田 伸男
第17回	鳥取県	米子市	米子文化ホール	豊田 博
第18回	山口県	山口市	山口県総合保健会館	泉 博則
第19回	島根県	松江市	松江テルサ	木村 昌美
第20回	岡山県	倉敷市	川崎医療福祉大学	永富 史子
第21回	広島県	広島市	広島市東区民文化センター	山口 雅子
第22回	鳥取県	米子市	米子コンベンションセンター	福井 健一
第23回	山口県	山口市	山口県総合保健会館	杉山 英樹
第24回	島根県	出雲市	出雲市民会館	内田 賢
第25回	岡山県	倉敷市	川崎医療福祉大学	國安 勝司
第26回	広島県	廿日市市	はつかいち文化ホール	久保 高行
第27回	鳥取県	米子市	米子コンベンションセンター	三谷 管雄
第28回	山口県	下関市	DREAM SHIP 下関市生涯学習プラザ	山本 悟
第29回	島根県	出雲市	出雲市民会館	安食 克志
第30回	岡山県	倉敷市	川崎医療福祉大学	武田 正則
第31回	広島県	広島市	広島市西区民文化センター	甲田 宗嗣

第32回中国ブロック理学療法士学会 抄 録 集

発行日：2018年7月24日

発行者：大床 桂介 YMCA 米子医療福祉専門学校

事務局：一般社団法人 鳥取県理学療法士会
〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212番地5
鳥取県立倉吉未来中心団体事務局サロン
TEL：0858-24-6930 FAX：0858-24-6930
E-mail：cbpt32nd.tottori@gmail.com

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<http://www.secand.jp/>



第32回中国ブロック理学療法士学会事務局

一般社団法人 鳥取県理学療法士会

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212番地5

鳥取県立倉吉未来中心団体事務局サロン

TEL: 0858-24-6930

FAX: 0858-24-6930

E-mail: cbpt32nd.tottori@gmail.com